新しいアジサイの栽培方法　　鎌倉アジサイ同好会　前川英吉

その-１０　　自生アジサイベスト　１０

これまでアジサイについて栽培の方法と種類などを説明させて頂きました。生活の中で植物がいつも身近に感じられることはとても大切なことの一つと考えています。お陰様でこの趣味を通じてたくさんの人と知り合うことも出来ました。

右の写真は鉢植えのヤマアジサイを飾ったものです。高さは１５センチ～３０センチほどで小さく、花数も少なくお世辞にも派手ではないのですが、眺めるともなく観ていると何とも引き付けられます。

確か数年前でした。月刊誌 NHK の「趣味の園芸」で夏に栽培したい植物の第一位はアジサイだったことを思いだします。日本人にはとても身近なアジサイは万葉集にも詠われているくらいですからおそらく千年以上昔から身近に咲いて親しみやすい植物だったのでしょう。

国内に自生のアジサイの仲間は大きく分けてガクアジサイ、エゾアジサイ、ヤマアジサイがありますが、さらにその品種の数はヤマアジサイだけでも現在千種類以上はあるだろうと云われています。

ではアジサイではどの品種が素晴らしいのか・・・。とても難しい問いになりますが、これまでヤマアジサイを中心に栽培してきた中から今回は 私の独断? で上位１０種類程度を紹介したいと思います。

第１０位　　九重八重（くじゅうやえ）　　大分県産　ヤマアジサイ

形態は青色の八重、額ブチ咲きで比較的小型の部類になります。産地の大分県はこれまで新種のヤマアジサイが数多く発見される場所です。九重山を中心として津江シリーズ、倉木シリーズ、由布シリーズと四国の高知県、愛媛県等と並んでヤマアジサイの宝庫といえます。

その中でも私のお気に入りはこの九重八重です。右の写真は数年前に密生させて鉢を置いて管理したことによってまったく偶然に枝がぐにゃぐにゃと曲がり懸崖仕立てに咲いたものです。ヤマアジサイは盆栽植物のように樹に針金を掛けて強制的に曲げて形を作ることは出来ない植物ですから、人間の期待通りの形にならない、この偶然性もヤマアジサイを楽しむ一つになります。

このように鉢栽培でヤマアジサイの咲いた雰囲気を楽しむためにわざと鉢を密集させて置くことで枝の隙間から苦しがって伸びることで何となく半懸崖になったり、懸崖造りとなったり、または鉢を斜めに置いて管理し、傾斜に咲かせて樹形を楽しむ方もいるようです。枝が暴れる品種を嫌がる人もいますが私は逆に暴れる方が和風の雰囲気が楽しめると思っています。

第　９位　　ちぎれ雲　　エゾアジサイ

名前の通り、北は北海道北西部から裏日本側の冬は雪の多い地域を南下し、石川県さらに島根県県、鳥取県あたりに分布する大型のアジサイです。生育地域は地下水が自然と染み出すような山の斜面が適しているようで数年前に長野県高山村の奥山田牧場内の湿地帯で自生のエゾアジサイが見事に咲いているのを観たときには感激したのを今も鮮明に覚えています(下の写真)。学術的には DNA 分析の結果からガクアジサイに近いとされていますが、葉には艶(つや)が無いし直射日光には弱く、小型に咲かせることは非常に難しいガクアジサイとは違った性質を持つエゾアジサイです。しかし、やっと咲いたときのエゾアジサイの大輪は何ともいえません。

上の３枚の写真は数年前に鉢栽培で咲いたエゾアジサイのちぎれ雲という品種です。形態は白地に紅紫色の吹掛け絞り模様で額縁咲きの殆ど一枚だけに絞り模様が現れる大型品種です。

実はこの「ちぎれ雲」、白色のエゾアジサイの品種は数が少ないようで鎌倉アジサイ同好会の主催する自生アジサイ展で出展されたのはおそらく一度だけのように記憶しています。それだけ、小さな鉢では咲きにくい気難しがり屋なのですね。

長野県　高山村　奥山田牧場内のエゾアジサイ

第　８位　瀬戸の夕紅　（せとのゆうべに）愛媛県産　ヤマアジサイ

ヤマアジサイの場合、赤系と青系の比率は圧倒的に青系が多いと思いますが、赤系の中の代表格といえば何といっても長野県産の「クレナイ」でしょう。開花は殆ど白色から桃色、最後の咲終わりは濃い紅色へと変化します。またきちんと日光に当てていれば殆ど用土の性状には影響されません。

クレナイ　咲き始め　　⇒　　クレナイ　咲き終わり

しかし、ここで紹介する赤花の「瀬戸の夕紅」は整った装飾花の形と上品な赤色が毎年のように目を楽しませてくれる品種で大変気に入っています。ただし、この瀬戸の夕紅には樹形が悪いという欠点を持っています。具体的には突っ立ち形で、さらにある程度の大きさ以上に成長して花芽を持つために展示会用の出展にはどうしても不向きな感じで、展示品としてもなるべく後ろの方の目立たない場所に並べて花色だけを観てもらうようです。それこそ瀬戸の夕紅が懸崖仕立てとはならないまでも鉢から高さ３０センチ程度で横広がりの咲き方をしてくれれば最高ですが。

「瀬戸の夕紅」形態は赤紫色の円弁一重の額ブチ咲きです。両性花は青色です。

瀬戸の夕紅　　⇒

第　７位　　八丈千鳥（はちじょうちどり）　　東京都八丈島産　　ガクアジサイ

　アジサイの花の咲き方で豪快さといったら「八丈千鳥」が最高でしょう。まさにアジサイの王様です。ガクアジサイですから地植えが最適で成長も早く、その樹高は３メートル以上にもなります。また、花付も良く花数とその大きさは真っ白いバレーボールのような迫力があります。千鳥というと小さな感じですが、シロサギが飛んでいるようです。
　形態は白の細長い八重で装飾花の多い額ブチ咲きです。また、両性花は白色で気温が高い条件では周年成長します。

　この八丈千鳥については数年前に八丈島に出掛けた時、全く偶然に熱帯植物の観光案内ボランティアをされていた桜井さんという方と知り合い「八丈島はどこへ行ってもアジサイだらけですね」という会話から八丈千鳥はこの方が仲間と見つけた品種と聞いて驚きました。何でも遠くから双眼鏡で山の反対側の絶壁に一本だけ白い花を付けた木があるのを見つけロープを使って降りてやっと枝を何本か採ったそうです。島にはこの一本だけだったそうです。私も島中を車であちらこちらと回りましたが殆どが同品種のガクアジサイだらけで自生の八重咲きは一本も無く、八丈植物公園に伺い職員の方にも自生アジサイ品種のことを聞きましたが品種数は極少ないとのことでした。

伊豆　城ケ崎の平澤　哲氏宅の八丈千鳥

６位　　胡蝶の舞　（こちょうのまい）　兵庫県産　　ヤマアジサイ

　兵庫県美方郡扇の山で見つかった品種からでしょうか、少し前までは扇八重とか胡蝶七段花とも呼ばれていました。ヤマアジサイもここまで完成されたのを観ると自然の力に改めて驚かされます。
　鎌倉アジサイ同好会の川島榮生さんもその著書の中で胡蝶の舞のことを「魅力は夢見るように淡い藤色の大きなヤマアジサイの装飾花、幾重にも重なる弁の奥外で見せるグラデーション。さらに弁の間から小さな八重の小花が現れる贅沢な取り合わせ云々」・・と称されています。
　私もアジサイ栽培の当初から胡蝶の舞をみてきましたが、色、咲き方、大きさ等々　これが６位になるかどうか、魅力は夢見るように・・・は別としても素晴らしいヤマアジサイであることは間違いありません。
　日本の自生アジサイについてヤマアジサイで有名な５品種を紹介してと言われたら「クレナイ」「黒姫」「七段花」「舞子」それにこの「胡蝶の舞」を挙げますね。

　形態は淡い桃色で多少星形に近い乱れた形の八重の大輪で額ブチ咲きです。大輪の下にさらに小さな装飾花を付け子持ち咲きになり、中心の両性花は退化して落ちます。
　木の大きさは 20 センチ～50 センチ程度で鉢栽培に向き毎年の展示会にも多く出展されています。

第　５位　黄金富士　（こがねふじ）　　静岡県産　ヤマアジサイ

室内で落ち着いてアジサイを鑑賞するときに気に入っているのはこの小型品種の「黄金富士」です。

数年前、鎌倉アジサイ同好会の仲間が咲かせていたヤマアジサイを見に行った時にとても小型で花付の良い品種が目に留まりました。装飾花は白色で一重の額ブチ咲き、装飾花の弁は重なるでもなく、よじれるでもなく、これといった派手さもないのですが、その大きさがいかにも小ぶりで鉢植えにした場合は３号か４号鉢程度で充分に楽しめると感じたものです。早速その時に枝先を何本か頂き挿し芽をして育てました。

この黄金富士は和室にうまく調和するヤマアジサイといっても良いでしょう。さらに丹念に観察すると新葉の頃はやや黄色気味の葉に散斑があり、夏頃には斑模様が消える後暗み（のちぐらみ）の性質があるようです。ヤマアジサイの小型品種はこの他にも沢山ありますが毎年安定して咲かせることは難しい品種も多いことは確かです。（小糸、岩の白露、童という品種はやっかいです）

アジサイの展示会で鉢栽培のヤマアジサイを観て頂いた感想に「置く場所が無いから・・」と言われる方がいらっしゃいますがこの小型品種ならば玄関先、屋内の小さなテーブルや和室の隅など屋内で充分に楽しめる品種といえるでしょう。

第　４位　　古代紫　（こだいむらさき）　静岡県産　　ガクアジサイ

濃紺、テマリ咲きの古代紫

第５位がお気に入り小型のヤマアジサイならば第４位は大型のガクアジサイ　古代紫といえるでしょう。

写真は静岡県伊豆半島の平澤哲氏宅のアジサイ圃場で撮った古代紫（大和アジサイ）です。

地植えで成長したその木の大きさには驚きましたが、花の色では深みのある濃紺色に思わずガクアジサイの素晴らしさを感じました。と同時に、ガクアジサイはヤマアジサイとは異なり鉢植え栽培では本当の色で咲かすことは難しいとつくづく思ったことです。

古代紫は伊豆半島東海岸で自生のガクアジサイで、形態は大型のテマリ咲き、装飾花は咲き始めが紺の底白から始まり、さらに濃紺色になります。木の大きさは八丈千鳥ほどではないとしても２メートル以上はあり迫力は満点です。

下に同氏宅で咲いていたガクアジサイを載せました。近くの城ケ崎海岸では潮風や強い日差しに晒されながら無銘のガクアジサイが沢山咲いていました。

ガクアジサイ　波しぶき

ガクアジサイ　無銘品種

ガクアジサイ　無銘品種

ガクアジサイ　磯笛

第　３位　　満天星　（まんてんぼし）　大分県産　　ヤマアジサイ

ヤマアジサイの咲き方の中でテマリ咲きはその咲き方に多くの変化が見られます。おそらく最初は額ブチ咲きから徐々に変化していったものと思われますが半球形の半テマリと呼ばれる品種から完全な球形まで、また色も大きさも様々なテマリ咲きが自生しているようです。

ここで紹介したいテマリ咲きの最高品種といえば「満天星」を挙げたいと思います。

形態は濃桃色の一重で完全な球体となる比較的大型のテマリ咲きで、何よりの特徴は一重の装飾花が密状態にならずある程度間隔を空け、見方によって非常に涼しげな印象を与えていることである。多くのテマリ咲きのヤマアジサイの中では他に坊ケ鶴テマリの咲き方がこれに似ていますが珍しいテマリ咲きといえます。

下に「舞子」「玉の露テマリ」「仁尾内テマリ」「伊予獅子テマリ」のテマリ咲きヤマアジサイを載せました。何れも人気の品種ですが個人的には５月から６月の入梅時期に咲くにしては弁が密に重なり合い、見た目が風通しが悪く何か暑苦しい感じがしないでもないですね。

ただし、この満天星も２つの問題を持っているようですよ。一つは新芽とひこばえが鉢のあちこちに出やすく根の管理が大変なこと。さらには、テマリが大きいために雨水の重みで垂れさがることになります。

舞子

玉の露てまり

仁尾内てまり

伊予獅子てまり

第　２位　　山口の風　（やまぐちのかぜ）　山口県産　　ヤマアジサイ

形態は白色、一重の額ブチ咲きで比較的小輪です。写真のように３輪から４輪の装飾花で両性花は青色の樹高５０センチ程度の中型品種といえます。

山口の風の白色は限りなく白色に近い淡い水色で、左の写真でもよく見ると装飾花の弁の縁は淡い水色であることが分かります。この品種の特徴は枝が細くそのために半懸崖から懸崖咲きになり易いこと、また花付も良いことから４号から５号鉢程度の管理で「詫び」「寂び」を感じさせる上品なイメージのアジサイとしてはこの山口の風が最高とか考えます。

余談ですが、この白色は極僅かの青色があって始めて人の目には白が強く観えるのです。鳥取県産の大剣、雅、天恵等も似たような弁です。

上から見た「山口の風」は形も単純な白弁で僅かな風が吹けば今にも回り出しそうな雰囲気を持っています。

鉢植えで細身の枝先に揺れる花を眺めたい方には是非ともお勧めの品種です。このような性質を持つヤマアジサイは他にも西予八重娘、夢、久住線香花火等があります。

第　１位　　波しぶき　　高知県産　　ヤマアジサイ

波しぶき

第一位はどの品種か、大分迷いましたがヤマアジサイの一重額ブチ咲きの絞り模様が綺麗な「波しぶき」としました。この品種は比較的最近高知県で見つかった品種で装飾花の模様も木の大きさも中型で５号鉢程度の管理し易い大きさで大変気に入っています。今後の展示会ではこのような装飾花に絞り模様や、絣模様、覆輪、爪紅などの色鮮やかなヤマアジサイが多く出品されることを期待しています。

下の写真は一重、額ブチ咲きで青系、赤系の装飾花に絞り、絣模様等の現れた品種です。細かく観察すると品種によって微妙に模様の違い（植物用語で地合いといいます）が分かります。

波しぶき

津野山神楽

阿蘇姫絞り

清澄沢

伊予の青絣

天使の足跡

一　閃

稲　妻

四国　無銘品種

入野絞り

番外編　　太白　（たいはく）　宮崎県産　ヒュウガアジサイ

毎年咲かせるために苦労する品種は最後に追加で紹介することにしました。一つは宮崎県椎葉村産の太白です。数年前に入手しましたがおそらくヒュウガ系のアジサイと思われ、その根拠として先ず花芽が寒風によって冬枯れし易く、花数も少ないこと。葉はやや艶のあるテカリ気味で、枝、幹が黒っぽくその枝も幹から不規則に新芽を伸ばす性質が見られます。これは同じ宮崎県産の華車、日向の紅神楽紅奴なども同様の性質が見られます。

太白

しかし、咲かせた太白の白色はまさに純白そのもので気難しい性質に付き合ったことも忘れさせてくれます。残念ながら５号鉢程度の鉢栽培では本芸を見せることは期待出来そうもなく６号以上の大鉢に挑戦する予定です。

余談ですが、この太白は宮崎県内のゴルフ場内で見つけたらしく柵越しに手を伸ばして枝先を採ったとのことで、偶然その時に２本採った挿し芽用の枝の一本が「太白」で別の一本は「扇テマリ」だったという逸話が残っています。

扇テマリ

太白

番外編　　綾（あや）　　石川県産　エゾアジサイ

番外編に載せるとしたら外せないのが「綾」です。
雪国の石川県山中温泉で見つかったこの品種の形態は淡い桃色、剣弁状の八重咲きでエゾアジサイを代表する品種といえます。
　エゾアジサイはヤマアジサイと比較して鉢栽培では花芽を付けにくく、冬の乾燥した寒風に花芽が枯れやすい傾向が見られます。綾も例外ではなく、なるべく大きな鉢で剪定も僅かに切る程度に抑えて育てた方が毎年花を咲かせてくれるようです。
　いずれにしても綾の白～淡い桃色の八重咲きを一度はどうしても咲かせてみたい品種であることはだけは間違いないところです。

綾

　またまた余談ですが、数年前に石川県山中温泉に出掛けた際、鶴仙峡という渓谷でエゾアジサイを見つけましたが、八重咲きではなく桃色の一重、額ブチ咲きエゾアジサイでした。この辺りは淡い桃色品種が多く自生しているようでした。

山中温泉　鶴仙峡　無銘　エゾアジサイ